

渡慶次小学校のガジュマル



認定番号 58

樹種名	ガジュマル	科名	クワ科	方言名	ガジマル	学名	Ficus microcarpa L.f.						
形状・寸法	樹高 5.4 m	胸高周囲 4.6 m	根本周囲 4.8 m	樹幹占有面積 69.0 m ²									
	枝下高 0.9 m	枝張 東 7.00 m	西 5.7 m	南 3.9 m	北 2.2 m	最大樹冠幅 12.7 m							
通称	渡慶次小学校のガジュマル		樹齢	100年(推定)		所有者	1 国 2 県 3 市町村 4 その他公有 5 社寺 6 個人 7 会社 8 その他民有 9 不明						
所在地	読谷村字瀬名波547					状況	1 単木 2 樹叢中 3 樹林中 4 その他						
立地場所	1 公園 2 庭園 3 個人の庭・屋敷 4 公共施設 5 学校 6 神社寺院 7 拝所 8 市街地 9 街路 10 その他						気象条件	月	1月	2月	3月	4月	5月
保護制度	1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 3 市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 5 保存樹 6 名木 7 その他 8 なし					(最寄りの7メダスター)		平均気温(°C)	16.4	17.9	19.5	19.8	22.9
	周囲の状況	1 樹林 a 大面積山林 b 小面積山林 2 芝地 3 耕地 4 建物の間 5 道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 (運動場)					降水量(mm)	126	69.0	147.5	192.5	415.0	84.5
土地傾斜		1 平坦(0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向:					2013年	平均風速	6.5	6.2	5.2	5.3	4.9
	土壌	1 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 (測定不能)						風向	NNW	NNE	NNE	NNW	NE
基岩・母材							潮風の影響	1 なし 2 ややある 3 ある 4 やや強く受ける 5 強く受ける(特記)					
	地形	1 山地 2 丘陵地 3 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪:窪: 9 カルスト 10 埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他						日照条件	1 良い 2 普通 3 やや不良 4 不良				
土性		1 砂壤土:大部分が砂で僅かに粘土を感じる 2 壤土:砂と粘土が半々 3 埴壤土:大部分粘土で僅かに砂を感じる 4 埴土:ほとんど砂を感じない					周辺樹木の影響	1 なし 2 わずかにある 3 ある 4 かなりある 5 深刻((状況))					
	根元及び周囲の植生	草本 1 密生 2 疎 3 なし 低木 1 密生 2 疎 3 なし						周辺根元の状況	1 土壌の固結がなくきわめて良好 2 固結はあまりなく概ね良好 土壌なし 3 固結している a 踏圧あり b 踏圧なし				
根元及び周囲の植生							周辺樹木との関係	1 影響なし 2 僅かに影響を受けている 3 かなり影響を受けている 4 深刻に影響を受けている					

管理状況	1 柵 a 有 b 無 (有の場合の高さ m、材質() 柵内面積 (m ²) 設置年	
	2 支柱 a 有 b 無 3 剪定 a 強 b 弱 c 無 d 枝折等の都度処理 4m以上が剪定 4 施肥 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 5 薬剤散布 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 6 解説板 a 有 b 無 7 避雷針 a 有 b 無 8 定期的な草刈・掃除 a 有 b 無 9 その他	
過去の治療歴と内容	痕跡無し	
故事来歴	1 無 2 信仰対象 3 禁忌(タブー) 4 祭事 a 有 b 無 5 いわれの内容 6 不明	
視認性	1 遠方からも目立つ 2 近くに行けば見える 3 直前まで見えない 4 敷地内にはいるとよく見える 5 敷地内に入っても見えない (理由)	
特記事項	1 動物生息 a 有 b 無 (有の場合動物の種類) 2 着生植物 a 有 b 無 (有の場合植物の種類 オオイトビ) 3 見学・参観者 a 有 b 無 (有の場合その数 生徒、父兄) 4 その他	

地上部の衰退度判定（認定番号58）

評価項目	評価基準				
	0	1	2	3	4
1 樹勢	旺盛な生育状況を示し被害が全く見えない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状況が極めて劣悪である	殆ど枯死
2 樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊
3 枝の伸長量	正常	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり、細い	枝は極度の短小、ショウガ状の節間がある	下からの萌芽枝のみ僅かに生長
4 梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端がない
5 下枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない
6 大枝・幹の損傷	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ大きく切断されている	大枝・幹の上半分がかけている
7 枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスが取れている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯死が多く葉の発生が少なく、著しく疎	ほとんど枝葉がない
8 葉の大きさ	葉が全て十分な大きさ	所々に小さい葉がある	完全にやや小さい	全体に著しく小さい	僅かな葉しかなく、それも小さい
9 樹皮の傷	傷はほとんどなし	穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない	古傷がある	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある
10 樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発	普通	樹皮に活力がない	著しく活力がない	樹皮の大部分が枯死
11 胴吹き・ひこばえ	枝は量が多く胴吹きひこばえもない	枝葉量が多いが胴吹き又はひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹きひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく胴吹き、ひこばえも少ない

衰退度 = 各項目の評価値の合計 / 11 (評価項目) = 0.36

衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
		0.8未満 良	0.8~1.6未満 やや不良	1.6~2.4未満 不良	2.4~3.2未満 著しく不良

倒木・枝折れ等危険度判定

項目	判定			
	安全	可能性あり	可能性高い	明らかに危険
通行者・建物等との位置関係	○			
根返り	○			
幹折れ	○			
大枝折れ	○			
中・小枝落下	○			
幹の傾斜の増大	○			
その他()				

土壌硬度調査結果（認定番号 58 渡慶次小学校のガジュマル）

測定位置	植え枒内		植え枒外	
	表層土壌硬度	植栽基盤としての判定 (硬さの表現)	表層土壌硬度	植栽基盤としての判定 (硬さの表現)
認定木の東側	28.0	固結	31.0	固結
認定木の北側	29.0	固結	コンクリート舗装のため未測定	
認定木の西側	30.7	固結	33.3	固結
認定木の南側	31.0	固結	34.0	固結

※1 本認定木の健全度調査は H25 年度に実施されたが、土壌調査は実施されなかった。H28.12.16 に表層の土壌硬度のみ調査を実施し、その結果を上表に記載した。

※2 山中式土壌硬度計を使用し、表層の土壌硬度を測定した。

※3 各測定位置で 5 箇所測定し、その平均値を表層の土壌硬度として記載した。

※4 晴れの日が続いた後測定し、測定時土壌は乾燥していた。

※5 下表に「山中式と長谷川式の土壌硬度試験の判定基準表」を示す。

山中式と長谷川式の土壌硬度試験の判定基準表

山中式土壌硬度計の硬度	長谷川式軟らか度	植栽基盤としての判定	
		根の侵入の可否	硬さの表現
指標硬度	S 値 (cm/drop)		
27.0 以上	0.7 以下	多くの根が侵入困難	固結
~24.0	0.7~1.0	根系発達に阻害有り	堅い
~20.0	1.0~1.5	根系発達に阻害樹種有り	締まった
~11.0	1.5~4.0	根系発達に阻害無し	軟らかい
11.0 以下	4.0 より大	根系発達に阻害無し 低支持力、乾燥のおそれあり	膨潤過ぎ

引用文献 植栽基盤調査報告書作成の手引き (Ver.5.3) 一般社団法人 日本造園建設業協会

部位	所見	対応
土壌	・植え枿内外とも固結している。	・土壌改良の実施を検討する。この際、数年かけて異なる場所で行うのが望ましい。
	・植え枿が小さい。	・土壌改良を行う範囲内への立入禁止を検討する。
根	・根圏が狭く、植え枿外にも露出根が見られる。	・植え枿の拡大を検討する。
	・気根は切断されている。	・樹体のバランス保持、養水分の吸収能を向上させるために可能な限り気根は育成し支柱根にする。特に西側の太枝を支持するために重要と考える。
	・イチジクカミキリの脱出孔が見られる。フラスも見られる。	・イチジクカミキリの防除を検討する。
幹	・イチジクカミキリの脱出孔が多数見られる。フラスも見られる。	・イチジクカミキリの防除を検討する。
	・太枝の分岐部に大きな空洞があり、腐朽が見られる。	・土壌改良、気根の支柱根化により樹勢を上げ、腐朽の進展の抑制、または進展を緩やかにすることが望ましい。
	・ヒメイトビが樹幹を覆っている。	・除去を検討する。
	・イチジクカミキリの脱出孔付近から進展したと思われる腐朽による樹皮の欠損が見られる。	・イチジクカミキリの防除の実施を検討する。
枝	・東に張り出している太枝の下面が溝状に大きく欠落している。	・土壌改良、気根の支柱根化により樹勢を上げ、腐朽の進展の抑制、または進展を緩やかにすることが望ましい。
	・東西に張り出している太枝に支柱が設置されている。長期間同じ場所に支柱を設置していると枝の肥大成長により支柱が取り込まれてしまう。	・定期的に支柱の位置を変えることを検討する。
	・樹冠付近に太枝の剪定痕が見られる。多数萌芽枝が見られる。	・今後は可能な限り太枝を剪定しないような管理を検討する。
葉	・着葉量は多い。	・無し
	・オキナワイチモンジハムシ、イツボシシロカミキリ等による食害痕が散在する。	・無し。
備考	・イチジクカミキリの防除を行い、土壌改良や気根の支柱根化により樹勢を向上させることが重要と考える。	

